第66回 日本医学検査学会の開催にあたり

一般社団法人　日本臨床衛生検査技師会
代表理事会長　宮島　喜文

本学会が，一般社団法人千葉県臨床検査技師会の担当で，メインテーマを「Vision －夢・創造－臨床検査の更なる進化と多様性を求めて」として盛会に開催されますことをお慶び申し上げます．

また，会員の皆様には，日頃から一般社団法人日本臨床衛生検査技師会（以下，日臨技と略す．）の活動につきましてご理解，ご協力を賜りこの場をお借りして厚くお礼申し上げます．

さて，私たち臨床検査技師を取り巻く環境は大きく変わろうとしています．会長就任時に掲げた「日臨技を再生し，未来を拓く」のスローガンの下，第64回学会（佐賀県）では「時代の求める風になれ」をメインテーマに，従来の受動的な概念から，検査室から医療現場に積極的に参画するための意識改革，イノベーションの必要性について，第65回学会（兵庫県）では，「伝統の継続と未来への変化」Challengeをメインテーマに，質の高い精度保証を担保した上で，国民の医療，地域医療を支えるメディカルスタッフの一員として，患者に寄り添い，専門性を生かして活躍するために，今何が求められているか．会員一人一人が未来の検査技師像を考えていただく場として企画運営されました．本学会は「Vision－夢・創造－臨床検査の更なる進化と多様性を求めて」をメインテーマに，昨今の新しい検査技術や検査業務の在り方，業務拡大の可能性など各分野において目指すべき臨床検査のVisionを語り合う場として企画されています．少子高齢化，地域支援型医療の大きな波の中で，医療提供体制の再構築，地域医療構想の推進などの政府主導の医療体制の変革，第4次産業計画などによる医療機器，IT技術の進歩，医療分野におけるAI技術の応用など，私たちを取り巻く医療環境は大きく変わろうとしています．従来の検査業務は，多量検体を中央検査室に集中させ，効率よく，データの質を担保した上で迅速に臨床に届ける「受動的業務」が主流であった．日臨技の事業として，法改正による「検体採取」の業務拡大，「検査説明のできる技師育成」「病棟・在宅業務推進」「認知症領域講習会」など，中央検査室中心の業務から，専門性を生かして「患者に正面から向き合った業務」への参画に向けた事業展開に積極的に取り組んでおります．本学会のテーマでもある「臨床検査の多様性」ついて考える機会となることを期待します．

最後になりましたが，本学会に参加された会員にとって有意義な学術集会であることを祈念するとともに，本学会の企画，運営にご尽力いただきました梅宮敏文学会長を始め，一般社団法人千葉県臨床検査技師会の皆様に厚くお礼申し上げます．